

1 「よい子」のまなみちゃん

小学校3年生のまなみちゃん（仮名）は、友達に示す思いやり、係活動での責任感、授業への真剣な取り組みなど、どれをとっても「よい子」です。この春から新しく学級担任になったさと子先生（仮名）が毎日目にしてきたまなみちゃんも、「よい子」のまなみちゃんでした。

そのまなみちゃんが、5月半ばの運動会后、3日連続で学校を休みました。なぜという連絡があり、さと子先生も運動会の疲れと考えていました。ところが、翌日の朝のことです。

母親：先生、まなみなんですが……。
担任：なぜ、いかがですか。
母親：実は……まなみが、ここ数日毎朝「学校に行きたくない」と言って泣いているんです。

電話の向こう側から母親の動揺が伝わってきます。さと子先生も驚いています。あのまなみちゃんが「学校に行きたくない」と言っているなんて信じられません。

担任：……何か学校に来たくない理由があるのでしょうか。
母親：それが……「別にない」って言うんです。
担任：そうですか。
母親：手のかからない、よい子だったのに。どうしたらいいんでしょう。

さと子先生もどうしたらいいのかわかりません。ただ、まなみちゃんに会いたいと思いました。母親にその思いを伝え、その日の放課後に、家庭訪問をすることにしました。

お母さんに呼ばれて、恥ずかしそうな素振り
でまなみちゃんは先生に会いました。

担任：こんにちは、まなみちゃん。
まなみ：こんにちは。
担任：なぜ、もう大丈夫？
まなみ：うん。
担任：運動会で疲れちゃったかな。
まなみ：……………。
担任：みんなも心配してるよ。
まなみ：……………。



まなみちゃんの沈黙に、さと子先生は少しずつ焦りを感じ始めています。話をするほど、まなみちゃんはうつむいていきます。何だか、叱られている子のようにです。

さと子先生は、本当は「学校で何かいやなことがあったの」と聞こうと考えていました。でも、今それを聞くことは、まなみちゃんを責めることになるような気がして、どうしても聞けませんでした。

「まなみちゃんの顔が見られて嬉しかったわ」さと子先生は素直な気持ちを伝えました。うつむいたまなみちゃんが顔を上げ、小さく笑顔を見せてくれました。

さと子先生は帰途につきました。

しかし、さと子先生の心は揺れています。これからどうしたらいいのかしら。